

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の海洋科学に対する意欲や探究心を高める教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②実習や学校行事、生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①アクティブラーニングを深い学びにつなげるための研究授業、教員研修会の実施及び内容の充実を図る。</p> <p>②実習や研究活動を通して、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①アクティブラーニングを通じた生徒の「深い学び」の実現に向けた科目や教科の横断的な授業展開方法を研究する。</p> <p>②地域や産業界と連携した実践的、体験的な学習活動を積極的に推し進めるとともに、生徒が実習や研究活動の成果を校内・校外で発表する機会の増加を図る。</p>	<p>①生徒の授業評価において「授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして、わかろうとする努力をしている。」の最も高い評価が40%以上となったか。</p> <p>②地域や産業界と連携した実験や実習を实践し、それらを発表する機会が前年度より増加したか。</p>	<p>①前期の評価、後期の評価における最も高い評価の割合は、両評価ともに36.6%であった。 ・10月から11月にかけて教科の枠を超えた授業見学や研究授業、研修会を実施し、重点的に扱って欲しい部分や共通部分などの情報交換・意見交換ができた。</p> <p>②東京大学と連携したアコヤガイの養殖や水産技術センター等と連携したキャベツウニの蓄養など研究機関や地域等と連携した実習を实践した。研究活動の成果については、全国海洋教育サミットや神奈川県漁業者交流大会等多くの機会が発表することができた。</p>	<p>①次期学習指導要領を踏まえ、生徒の「深い学び」の実現に向け、教科を横断した授業のあり方など組織的な授業改善についての取組と工夫が必要である。</p> <p>②地域や産業界と連携した取組について、海洋生物や海洋食品など特定の学習活動に限られている。 今後は、他の水産各分野についても取組を推進する必要がある。</p>	<p>①生徒による授業評価の評価結果については、目標は下回っているが評価できる内容である。 また、教科を横断した授業など、組織的な授業改善についても、取組みが推進されている。 今後は、次期学習指導要領を踏まえた組織的な授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>②地域や産業界との連携が推進され、連携事業が実習などにも取り入れられていることは評価できる。 研究活動についても、生徒が外部で発表する機会が増えている。 今後は一部の分野だけではなく多くの分野で地域や産業界との連携を推進することが必要である。</p>	<p>①教科の枠を超えた授業見学や研究授業、研修会などの実施により、アクティブラーニングを深い学びにつなげる取組が推進された。 今後は、教科の枠を超えた組織的な授業改善について一層の工夫が必要である。</p> <p>②地域や研究機関等と連携した実験や実習を实践し、研究活動の成果については、全国海洋教育サミットや神奈川県漁業者交流大会等多くの機会が発表することができた。 今後は、特定の分野だけでなく、他の水産各分野についても取組を推進する必要がある。</p>	<p>①次期学習指導要領を踏まえ、生徒の「深い学び」の実現に向け、教科を横断した授業に取り組む、アクティブラーニングを深い学びにつなげるための研究授業や研修会を定期的に実施する。</p> <p>②水産各分野における課題研究の取組や水産クラブでの取組を充実、発展させ、全ての水産分野において、地域や産業界との連携による研究活動、実習等が行えるような具体的な方策を検討、実施する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①行事・部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>①部活動加入率の増加等、部活動の活性化に向けた取組を推進する。</p> <p>②支援が必要な生徒に対する迅速な対応が可能となる教育相談体制を構築し、支援、指導の充実を図る。</p>	<p>①生徒の意識調査の実施をもとに分析と具体的方策の策定。</p> <p>②SC、養護教諭、教育相談コーディネーターの連携を密にし、担任等の関係職員との情報共有を徹底し、個々の支援に当たる。</p>	<p>①意識調査をもとに具体的方策を立て部活動加入率の増加ができたか。</p> <p>②関係各所の連携を個々の生徒の支援に結びつけることができたか。</p>	<p>①生徒の意識調査をもとに部活動、サークルの新設を行い1年次生の部活動加入が48%となった。</p> <p>②年間を通じSCと連携し、カウンセリングルームを有効的に活用して個別の生徒に対して支援を実施した。また、各年次と生徒支援グループが協力しながら生徒の見守りを継続することができた。</p>	<p>①部活動加入率については、思うように伸びていない。来年度以降も部活動加入率の増加、部活動の活性化に向けた具体的な取組を継続する必要がある。</p> <p>②教育相談体制が充実してきている。今後はケース会議など必要な取組を充実させ、有効な活用を継続していく必要がある。</p>	<p>①部活動の活性化は学校の魅力アップにつながる。教員の働き方改革も含め、OBなど外部の力を活用して、部活動の活性化に向けた取組を推進すべきである。</p> <p>②課題を抱える生徒に対し、SC、養護教諭、教育相談コーディネーターとの連携を密にしながら個々の支援を行っていることは評価できる。今後もケース会議など、必要な取組を推進すべきである。</p>	<p>①生徒の意識調査をもとに新設したウエイトリフティングサークルは、関東大会で2名が入賞を果たすことができた。 今後も部活動の活性化に向けた具体的な方策を検討、実施する必要がある。</p> <p>②支援が必要な生徒に対しSC、養護教諭、教育相談コーディネーターの連携を密にし、担任等の関係職員との情報共有を徹底することで個々の支援を充実させることができた。</p> <p>②SC、養護教諭、教育相談コーディネーター間の連携を更に発展させるとともに、情報共有を徹底させるため年次毎のケース会議を確実に機能させる。</p>	

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。	・専門に関するインターンシップの取組を推進し、生徒の専門深化を図るとともに、適切な勤労観、職業観を育成する。	・事前事後学習を十分に行い、専門グループごとのインターンシップの設定と実施を推進する。	・専門グループによるインターンシップが前年度より多く実施されたか。また、参加生徒数が昨年度より増えたか。	・夏期休業中に、水産技術センターや内水面漁業協同組合連合会、水族館等の機関やシラス網漁業、遊漁船など、専門系列によるインターンシップを企画・実施し25名の生徒が参加した。	・専門系列グループによるインターンシップの募集時期と募集方法の検討が必要である。 ・1, 2年次生徒へのインターンシップの参加に対する動機付けが必要である。	・漁業関係や生物系のインターンシップについては、昨年に引き続き充実しているが、他の分野に関しては、取組が不十分である。 次年度に向けては、インターンシップへの参加に対する意識付けを早い段階から行う必要がある。	・専門系列によるインターンシップを企画・実施し25名の生徒が参加した。参加生徒の進路希望や進路実現に向けて充実した取組み内容となった。 今後は、インターンシップの参加者を増やすための具体的な方策を講じる必要がある。	・専門系列グループによるインターンシップの募集時期と募集方法を検討するとともに、1, 2年次生徒全員へのインターンシップに対するガイダンスを実施する。
4	地域等との協働	①教職員一人ひとりが創意工夫し学校の魅力を開発・発信し、学習センター機能を充実・発展させる。 ②地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①海洋学習センター機能の充実・発展を図り、本校の魅力を十分に発信するとともに、本校の教育資源を活用した取組を推進する。 ②地域産業界等との連携、協働を推進し、地域から信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。	①三浦真珠プロジェクトを始めとした学校外組織との連携による事業を進めるとともに、成果を積極的に発信、本校の教育資源活用の分野拡大と深化を行う。 ②地域関連産業、漁協等のイベントなどに参加する機会を増やし、信頼関係をより深める取組を行う。	①海洋学習センターの事業取組状況およびホームページへのアクセス数が前年度より増えたか。 ②イベントへの参加が前年度より増えたか。またイベントでのアンケート結果で生徒の自己肯定感を高めることができたか。	①三浦真珠プロジェクトなど地域で行われている様々な取組に協力し、事業について広報することができた。また、ホームページを充実させ、学校行事や実習風景などについてホームページで積極的に発信し、ホームページのアクセス数が1日平均120件になった。 ②「よこすかさかな祭り」「Fish-1グランプリ」など、新たなイベントに参加し、多くの地域団体と連携した取組を行い開かれた学校づくりを推進した。	①ホームページや水産海洋関連の情報などに興味関心が薄い中学生や保護書に対して、本校の魅力をどのように伝え、届けるか広報活動のアプローチを考察・改善する必要がある。 ②東京大学、三浦市、横須賀市、漁協、地域産業界との連携など地域との協働を推進した。今後は、地域ブランドの開発や生産物販売などの取組を更に具体化していくことが必要である。	①三浦真珠プロジェクトを始めとした外部との連携事業が推進され、マスコミなどにも取り上げられていることは、評価できる。 また、ホームページの更新回数も例年より多く、教育活動の成果を積極的に発信している。 今後も学校の魅力を積極的に発信していくことが必要である。 ②地域関連産業、漁協等のイベントなどに参加する機会が増え、信頼関係をより深める取組が充実してきたことは評価できる。 今後は、地域と連携した商品開発などを具体化していくことが必要である。	①海洋学習センター機能の充実・発展が図られ、水産、海洋教育に興味・関心が高い方へ本校の魅力を十分に発信することができた。 今後は、水産・海洋教育に興味・関心が薄い中学生や保護者に対して、本校の魅力をどのように発信していくか、広報活動のアプローチを考察・改善する必要がある。 ②地域関連産業、漁協等のイベントなどに参加する機会が増え、関係機関等との信頼関係をより深めることができた。 今後は、6次産業化を見据えた地域と連携した商品開発、生産物販売などを具体化していくことが必要である。	①学校行事や実習風景などについてホームページで積極的に発信し、更新回数を更に増加させる。 また、水産・海洋教育に興味・関心を持ってもらうため、近隣中学校に対する出前授業や施設見学等の受入を積極的に実施する。 ②地域と連携した地域ブランドの新製品を開発し、商品化を目指して産、官、学の連携事業を推進するとともに、実際の販売に向けた具体的な方策を検討、実施する。
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。	神奈川県教育課題について教職員の意識を高めるため、教員研修会の実施及び内容の充実を図る。	地域との交流を積極的に推進する為のイベントなどを企画立案するための研修会等を開催する。	研修会の参加率及び提案された企画数を高めることができたか。	地域の方に本校の学びの内容を知ってもらうための企画として生産物販売所の開催が立案された。企画の実現に向けた研修会を開催し、今年度5月より月に1回程度本校の実習製品等を校内販売した。各回50名~100名程度の来校者があり、好評を得た。	来年度のコミュニティスクールの導入に向けた今後の取組を推進することが必要である。	開かれた学校づくりを推進するため、生産物販売の実施など、地域の方が来校する機会を増やしたことは、評価できる。 来年度のコミュニティスクールの導入については、取組み内容の具体を精査する必要がある。	生産物販売所の開催など、地域との交流を積極的に推進する為のイベントを実施し、多くの来校者があった。 今後は、来年度のコミュニティスクールの導入に向けて各職員の意識を高めるための研修会等を充実させることが必要である。	来年度のコミュニティスクールの導入について、具体的な取組内容を検討するとともに、コミュニティスクールに対する職員の意識を高めるための研修会を実施する。